

# οἰρανός

**TU** 東北学院大学 広報誌  
TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

ウーラノス

特集 NEW WAVE T.G.U.

『大学設置50周年』

座談会:東北学院大学の改革の方向

「今後の教育と研究の改革について」.....

東北学院大学設置50周年記念事業の紹介.....

「ΟΥΡΑΝΟΣ(ウーラノス)」は、「天」を意味するギリシャ語です。イエス・キリストは、パン五つと魚二匹で五千人に給食する奇跡を行われました。「天を仰いで賛美の祈りを唱え、パンを裂いて弟子たちにお渡しになった(マタイ14:19)」との記事にも οἰρανός が用いられています。



## CONTENTS

- 学生たちは、今.....
- 東北学院大学におけるITの応用...
- 入学試験の実施状況.....
- 特色ある研究.....
- 学長室より.....
- 大学院より.....
- 学部より.....
- 国際交流センターより.....
- 研究所・センターより.....
- 図書館より.....
- 就職部・入試センターより...



21世紀通信

Vol.6

FEBRUARY, 2001

大学広報誌『ΟΥΡΑΝΟΣ(ウーラノス)』は、東北学院大学設置50周年を記念して年3回発行しております。本号では大学改革に関する座談会を掲載しました。皆さまのご理解とご支援を得て、東北学院大学に託されております高等教育機関としての使命を十全に遂行して行きたいと願っております。



# 特集 東北学院大学の改革の方向

—「今後の教育と研究の改革について」—

## 座談者

学長	倉松 功	経済学部長	関谷 登
副学長(総務担当)	関根 正行	法学部長	阿部 純二
副学長(学務担当)	出村 彰	工学部長	中鉢 憲賢
文学部長	細谷 良夫	教養学部長	大山 正博

## 司会者

宗教部長  
佐々木哲夫(大学広報誌発行小委員会編集長)

### 学長提案概要

#### 全学共通の教養教育科目について

本学の特色としてのキリスト教学の重要性を確認しつつ、その内容について開かれたものであること(例えばキリスト教人間観、キリスト教文化など)  
グローバル化時代を生きるスキルとしての英語・ITの教育の更なる充実。  
英語グレード制とIT設備の充実と授業の導入  
東北アジア(朝鮮、中国、極東ロシア)、東南アジアとの関係を重んじ、交流への基礎としての朝鮮語・ロシア語授業を開講  
グローバル化時代の教養として世界文化史の知識を含め、人文、芸術、社会、自然のリベラルアーツの幅広い教養を履修しうるような科目の設置

#### 授業内容・方法の改善・充実(ファカルティ・ディベロップメント)

教育を重視し、教員の教育業績を評価する制度を創出  
教員数の確定、配置換えの推進  
セメスター制度の確立  
シラバスの充実、「学生による授業評価」の結果の活用と改善  
成績評価の客観的基準の制定

#### 専門教育と職業予備教育

それぞれの専攻に対応した特定専門職(スペシャリストあるいはプロフェッショナル)への教育の導入  
の点に関連して、学部、学科、専攻によっては学部教育と大学院の教育とのより効果的な連結  
学部、学科、専攻間の単位読み換え、互換の更なる推進。例えば、主専攻(メジャー)、副専攻(マイナー)制の導入

#### 大学院の種別化

研究者養成(博士課程後期) 高度専門職の養成資格取得 教養リカレント  
に対応した大学院担当者の配置と相互協力  
a 研究者養成コース b 税理士養成、専修免許状取得、連携ロースクール、ビジネススクール(事業後継者育成コース)などを含む。学外専門家、有識者の協力 c 教養・リカレントコース

#### 国際交流

総計約30校・常時、収容定員の1%程度の交換留学生の派遣と受け入れを可能とする・協定校の選定  
外国人教員の積極的採用  
国際交流のための日本語教育の制度化

## 全学共通の教養教育科目



倉松 功  
対して、是非、先生をお聞かせ願いたい

中鉢 憲賢  
:通の教養教育科目、開かれたものであり、キリスト教学とキリスト教人間観とキリスト教文化との関連性について意見を伺いたいと思います。

阿部 純二  
学長提案の「開かれた」ということが、キリスト教人間観やキリスト教文化などに重点を置くということであれば、大変結構なことではないかと思えます。すなわち、現在はキリスト教そのものに集中しているように感じます。今後、幅広い見地で、歴史あるいはその思想を背景にしてキリスト教を教えていただくことは、キリスト教大学である本学には是非必要だと考えます。

中鉢 日頃から学生たちに、「工学は人間の幸福、福祉のために、さらに人間社会にどう貢献するかを考えなければならない」、すなわち、工学は、キリスト教と大きくかかわっていることを理解しなくてはならないと語っています。工学は直接人間にかかわってくる実学であることを常に意識しています。

司会 教養教育と専門教育の関係にも触れますので、特に、語学教育、もしくは、英語グレード制やIT教育についてお伺いしたいと思います。

中鉢 工学部でもグレード制を今年から実施しています。IT教育は、工学部が直接関係している課題です。21世紀のITを支える技術者を育てるといふ大きな責任があります。その中には、キリスト教を基礎とした倫理教育も必要であると認識しています。

関谷 工学部においてITをどのように授業の中に組み込んでいくかということ、文科系学部でITをどのように扱うかという問題は、基本的に異なると思えます。IT教育を進める上で、専門家の立場からITの功罪ということを大学の中で問題提起していただければと思います。また、文科系学部においてITをどのように活用できるかということに関しても具体的な提案をしていただければと思います。英語グレード制については、現在実施しているグレード制は第1段階であると考えます。

問題は学生が次のグレードにどのように移行できるかという仕組みがまだ確立されていないことです。ニーズを抱えている学生に柔軟に対応できる語学

教育をいかに提供できるかが課題であると思えます。

阿部 法学部では、平成12年4月からグレード制を導入しました。これは、学生の学習目的が一つの柱としてあり、もう一つに高校までの英語の習熟度というものがあります。その二つを組み合わせ、読解・会話・実用をそれぞれ2段階に分ける形で、6つのクラスで実施しています。学生のニーズに応えたつもりですが、学習効果が上がっているかについては、もう少し時間が経過しないとわかりません。

細谷 グレード制について、文学部では英文学科と史学科を中心に始めています。問題点としては、教養学部の担当教員と文学部の学科教員の考え方に相違があり、早急に解決しなければならないと考えています。またIT教育については、各分野における様々な情報収集とそれにもとづく研究と教育に有効と考えます。ただ、教員によっては、従来のITによらない情報収集方法を継続して教えているという状況もあります。すなわち情報の蓄積方法が大幅に変化しているにもかかわらず、新たな状況に対応する方法を教えることができないというギャップは大きいと思えます。従来の何百、何千頁もの資料を

手でめくって情報をさがし、手書きで1字1字原稿用紙を埋める卒業論文のあり方は、今後、いかにして情報を収集し、かつ分析するかという指導も必要と思われる。

大山 グレード制の問題については、教養学部ではカリキュラムはグレード制を導入していますが、まだ完全ではありません。それは、教養教育、特に語学の基礎教育を担当している立場からすると、それぞれの学部のニーズに対応していかなければならないという問題があります。教養学部の英語系の先生方との意見がかみ合わないというだけではなく、かみ合わせる努力もしていただきたいと思います。当然それぞれの先生方は、専門家としての意識、特に語学教育についての知識や見識を持っていると思います。そして専門教育も行わなければならないということです。確かに専門家であればあるほどそれぞれの意見を持っていると思いますので、それを尊重しながら理想に近づける努力が必要であると考えます。将来は大学のグレード制と学生自身の意欲的な選択、例えばダブルスクールなどのシステムを学生が見つけて利用していくことも大切でしょう。

倉松 大学の教養教育の語学教育については、全学的合意として能力別、目的別グレード制の導入がなされました。その制度もさらに充実させることに協力していただきたいと思います。グレード制の徹底にあたって何か障害があれば、拡大教務委員会や学部長を通してご意見を出していただきたいと思ひます。

出村 それらの問題については、拡大教務委員会においても報告がありました。近日中に、グレード制導入の1年目のレポートを英語担当教員から提出していただく予定です。

大山 IT教育についてですが、教養学部は文科系と理科系を包含する学部です。教養学部の情報科学専攻では、学生

に対して持ち運びが容易なパソコンを全員に購入してもらうという試みをすでに始めました。今後はその効果についての評価も必要と思われる

ます。また、文科系でもコンピュータについて高度な関心を持っている学生もいます。1・2年生の間に正しい知識を身につけてもらい、また教員の側も新しい課題を学習する必要があると考えております。

関根 ITについて、年配の先生方は教育を受けていないのです。それにもかかわらずコンピュータを使っております。また現代の中高生もほとんどでき



副学長(総務担当)  
関根 正行

ます。ですから、ITの使い方に関しては、まったく心配ないと思います。現在、大学の講義では、情報リテラシーという初歩的なことしか行っていないのではないのでしょうか。今後の問題としては、それらを利用して何をすべきかという議論が必要であるように思ひます。

出村 先ほどの教養教育の問題ですが、この4月からの全学的なカリキュラム改正の中の教養教育科目は、実は一定の科目群から、各学部・学科が抽出したわけですから、それである程度偏ってしまいました。もちろん、そこには、FD(ファカルティ・ディベロップメント)にかかわる教員基準値や、学部の提供できるコマ数など、さまざまな制約があります。次のカリキュラム改正では、教養教育科目を全学共通科目として設定し、どの授業でも学生が履修できる方法を考えなければなりません。ただ、提供母体、すなわち教養学部の位置付けをしっかりと考えなければなりません。

大山 根本的な問題は、大学の教養教育に対する重視の必要性です。大綱化は教養教育の責任主体を無視してしまいました。そのため、専門教育の行き過ぎといひますが、学部内での専門教育への偏りの傾向はどの大学でも問題になっています。本学の場合は、あらためて抜本的に検討しなくてもよいような状況をつくり上げてきた、という実績があります。それを利用していただければと思ひます。

倉松 その点で、先ほど出村先生がおっしゃったことは大変意味があると思ひます。本年からの教養教育科目について、各学部の採用方法の枠を決めな

いと、どうしても卒業単位に取り組みやすいものに偏ってしまうと思ひます。どの科目を履修しても、それを単位に換算しなければ生きてこないと思ひます。ですから、もちろん専門基礎科目は教養科目として換算することはやむを得ないと思ひますが、どれをとってもいいということを示すことによって、さらに選択の幅が広がります。どこまで緩和することができるか、全学的に議論しなくてはならないでしょう。関谷 教養教育科目として開講されているものがどう体系化されているか、その意味でのコンセプトが明確でないために、どうしても教養科目といいながら専門科目が複数あるように見ることがあります。例えば、学長提案のとを連携する形で、あるいは歴史というものにもっとウエイトを置いて教養教育科目を再編するの一本の方法であると思ひます。

中鉢 倫理や哲学などには基本的な考え方があって、それらが教養教育科目として体系化されていれば、工学部の学生にとっても教養教育として十分ではないのでしょうか。とくに最近になって、技術者倫理を教育するべきとの要求があります。

倉松 とても大事なことです。哲学でも倫理でも、思想について自然科学の思想も法思想も包含する文化史ということであれば履修しやすいということでしょう。総合コースとしての文化史ということでもいいかも知れません。関根 教養教育科目の体系化はとても難しいと思ひますが、キリスト教学については体系化の基礎になると思ひます。例えば、キリスト教学ではキリスト教史を共通に組み込むという考え方もあるのではないのでしょうか。

倉松 関根先生がおっしゃったことは、具体的には例えばキリスト教学の教科書をつくるということに結びつく話でもあります。

司会 キリスト教学を提供している教養学部に教養学部キリスト教学担当者会議があり、学長の提案に沿って議論をしています。またそれを踏まえてキリスト教学科教員との意見集約を考えております。

大山 教養学部では常にどうあるべきかということを検討しています。これからは例えば拡大教務委員会が全学の教育内容を検討することが重要なポイ



副学長(学務担当)  
出村 彰



ントになると思います。

阿部 FDについてですが、一般的に法学部が一番FDを必要とするのではないかと思います。なぜならば、講義がほとんど大講義なのです。大講義の弊

## 授業内容・方法の改善・充実

害については以前から言われていますが、それを補うものとして演習(ゼミ)を行っています。演習のような少人数教育で大講義の予習復習を兼ねるということを行ってきました。先生方は、講義テストの実施やレジュメの配布など比較的工夫をしていると思います。しかし、個々の教員の創意工夫というだけで、体系的には展開されていません。また、先生方のそういう教育努力の評価の問題ですが、評価をどうすべきかということについて日本ではまだよくわかっていないような気がします。ですからその点はもう少し議論する必要があると思います。

大山 教育に関する業績評価についての外部の研修会に参加したのですが、どうしても基本的に研究業績を上げている先生方は教育能力もあるのだという結論に至ってしまう傾向があります。これは、簡単に言うと評価しやすいという面もあるでしょう。しかしそこを何とか考えないといけません。いろいろ情報収集していますが、他大学でも行っているところがありません。ですから、ある意味で東北学院大学独自の方向性を探る以外にないと思います。

倉松 いい教育システムを開発したり、教科書やプリントを作成したりという場合は、研究業績ではなく教育業績として加算できるのではないかと思います。少なくとも助教授への昇格には充分意味のあることではないでしょうか。司会 教育の改善として、シラバスの作成や学生評価のほかに、答案を学生に返すなどさまざまなことが提案されています。

細谷 文学部史学科の場合、平成13年度より卒業論文が必修になります。これまでは4年生の演習を評価するた

めに義務づけるものです。ところで、この卒業論文を読む作業が大変です。今まで経験したもので400字詰め原稿用紙に400枚というものがあり、一つの卒業論文を



文学部長  
細谷 良夫

読むのに3・4日かかるのです。しかも1人で評価せずに可能な限り複数の教員で評価するようにしています。また卒業論文の発表会や中間報告を行ったりしています。これらはカリキュラムに組まれた時間以外のもので、教育業績の評価として対象にはなっていませんでした。

関谷 経済学部もほとんどの授業は500~600人の学生を一度に対象として大講義を行っています。それを補完するように少人数の演習があります。そこに非常に大きなギャップがあるわけですから。ここでの教育評価というのはそういう枠の中での評価です。その意味で、やはりそういう条件の中で、単純に学生が教員を評価し、評価に基づいて授業を改善していくという仕組みには問題があるように思います。むしろ、多くの学生を抱えている学部学科の場合には、初めの段階で大学で学ぶということがどういうことなのか、あるいは大学における教授と学生との関係、そういうことについて徹底的に理解してもらうことが大事であると思います。

司会 FDの一つの特徴として、学生に点数を与えるときにどういう基準で評価するのかを明確にすること、例えば、試験の評価が何%、出席の評価が何%などを明示し、学生と先生の間の合意のもとにグレードを与え、また、学生もグレードを納得するというシステムを確立する必要があります。

関谷 評価の基準を明確にすることは大事なことだと思います。その方法としてどのようなことが考えられるのか、専門家に具体例をご教示いただきたいと思います。

関根 マスプロ教育においては、学生の把握自体が大変なのです。この大量教育の面をコンピュータを利用して何とか改善できないかと考えております。中鉢 工学部では、コンピュータを介しての学生とのコミュニケーションを検討しています。例えば、携帯端末などで、休

講情報を検索したり、メールを送信したりというようなものです。

関根 ただ、中鉢先生がおっしゃることを大勢の学生を相手にしなければならぬような先生の場合には実行は難しいように思います。おそらく1日中画面を見ていなくてはならぬのではないのでしょうか。

司会 方法論はいろいろなケースによって異なってくると思いますが、FDの基本にある考え方は、学生が満足するサービスを提供しなければならないという考え方の中で出てきていると思います。

関谷 大学では教員の役割と学生が果たすべき役割というのがあり、そのことを初めに学生に対して教えなくてはならないということです。それがなければ、先生の思いも伝わらないし、学生の思いも私たちには伝わらないのではないかと思います。

中鉢 そのことをFDのなかで行えないのでしょうか。シアトルのワシントン大学の多人数教育では、大学院生のティーチングアシスタントが4人程度い



工学部長  
中鉢 憲賢

るそうです。これらの大学院生は講義も学部学生と一緒に聴講して、先生にコメントするなど、先生とのコミュニケーションもよく、何百人の

テストの採点も担当しているそうです。倉松 工学部長がおっしゃったティーチングアシスタント制度を、本学の大講義の場合には応用できないのでしょうか。

関谷 問題は、大学院生の人数が決定的に少ないことです。また、科目によっては専門知識も必要になります。

司会 専門教育と職業予備教育についてご意見をお願いします。

阿部 法学部では平成12年度よりコース制を導入しています。例えば司

## 専門教育と職業予備教育

法関係、行政関係、国際関係、あるいは民間会社、そういう進路に応じたコース制です。ただ、現在のところは学生の単位取得に対してウエイトがつく程度で、専門職に向けての教育を行ってい

るというわけではありません。ただ個別的には希望者に対して公務員講座や司法試験入門講座を実施しており、特定専門職への方向性は常に意識しております。

倉松 今回、経済学部が企画している内容についてご紹介いただけますか。

関谷 学生やすでに企業に勤めている方、あるいは会社を営んでいる方の中には、さらに企業を発展させたい、新しく企業を起こしたいと考えている人たちがいます。そういう人たちが法律的な問題や実際起業する際の資金的な問題などさまざまな問題を総合的に学ぶことのできるセミナーのようなものを企画しています。それを平成14年度から経営学科にできる総合講座につなげていければと考えています。講義では、ベンチャービジネス経営者、法律の専門家などを呼び出す予定です。



経済学部長  
関谷 登

司会 それは、学部レベルだけではなく、ロースクールやビジネススクールとの関連で、単位互換、読み換えなど、大学院の科目を学部学生が履修

できるというおもしろみがあるかというと思います。

倉松 大学院の講義を学部の学生にも開放する、それから大学院の院生も学部の講義が聞けるということは今年から実現しました。その方向をさらに活発化させる、すなわち、学生の需要に応じてできることは対応するということでしょう。

細谷 文学部は、法学部、経済学部、工学部のように実学ではありません。文学部の史学科あるいは英文学科のカリキュラム構成の基本は、将来教員になるということの一つの目標にして組み立てられたものです。しかし、現実的に教員は過剰供給であり、学芸員や図書館司書に就くことも難しくなっており、それらに就職する学生は5%もないのが現状です。まさにその意味でいうと、高度の教養教育を行って一般のさまざまな職業に送り出しているのは文学部であると言えるかもしれません。その現実を認識してカリキュラムを再構成していくためには、例えば、現代というものを認識できる目を養う教育を重視

しなければならぬと考えます。

司会 専門大学院、もしくは、リカレント教育と関連してくるでしょうか。

細谷 教員以外の職に就く学生が今や95%ぐらいです。その95%の学生に英文学科と史学科のどれを教育強化するかが今一番問題です。文学部で取得できる資格を学生も父母も考えています。しかし、取得できるから教員になるという考えはとってほしくありません。司会 それは、学長提案の基本にある教養教育ともかかわる問題です。

倉松 英文学科にしても史学科にしても、優れた英語の先生、優れた地歴の先生を養成することは非常に大事なことでと思います。それが東北・北海道における本学の両学科の使命でもあると思います。ですからそれを継続すること、90%以上の大多数の学生がほかの職業に就くことは全く別であると考えます。学科の教育目的と学生の将来の職業予備教育をどのように調整させるかということや学科で考えるとともに、総合大学として全学的に考えなければなりません。その対応の一つとして、主専攻と副専攻という概念、学部間単位互換の利用もあると思います。

司会 ロースクール、ビジネススクールの展望を一言お願いします。

阿部 学長提案では、研究者養成、

## 大学院の種別化

高度専門職の養成・資格取得、教養・リカレントの3つに種別化しようとい



法学部長  
阿部 純二

うことですが、法学研究科の場合、もちろん、研究者養成は今後も続けますが、

が問題だろうと思います。ロー

スクールについては、先の司法制度改革審議会の中間答申で大体の輪郭は明らかになりましたが、これを導入すべきかについては、もう少し議論を重ねたいと思います。というのは、単独では無理ということになれば連携ということを考えなければなりませんし、連携にしても相当な費用がかかります。また学生の授業料も相当大きな負担となるでしょう。

関谷 経済学研究科では、研究者志望

の学生が数名ですが、大部分は税理士志望です。将来的にビジネススクールの方向に改組したときにどれだけの学生が集まるか、多少心配です。さらに問題なのが、例えば経営学専攻に分けたとしてもそのスタッフについてです。特にビジネススクールを目指して入ってくる人、あるいはそういうニーズを持っている人たちというのは、どちらかというとビジネス界においてもレベルの高い人たちです。そういう人たちが再教育や自己のスキルを磨くために入ってくる場合、それに応えられるスタッフを準備しておかなければなりません。

細谷 国際交流を促進することが提案されています。やがて国際交流をめぐる各学部の見解が出されるでしょうが、

## 国際交流

それに基づいて大学としての方向が確認され、国際交流委員会などの関係機関で実施方法を検討することになると思います。ですから現在は各学部の見解を待っているところですが、あえて委員長個人の立場からは、国際交流は大きく分けて、学生を中心とする観点と研究・学術交流を中心とする観点があると考えています。前者、すなわち学生の留学、派遣と受入れは、学生の教育という全学的な観点から推進すべきでしょうから国際交流委員会は積極的に関与できるのではないかと思います。しかし研究・学術交流については、各学部あるいは各教員の考えがそれぞれ相違するし、相違することが当然でしょうから、国際交流委員会が積極的に関与することは難しいのではないかと考えています。

司会 本日はありがとうございました。



宗教学部長  
佐々木 哲夫

# 東北学院大学設置50周年記念事業の紹介



東北学院大学設置50周年記念事業は、学内外の多くの方々のご協力に支えられ、予定していた二年間のすべての事業を終了いたしました。

## 国際シンポジウム

10月7日に、「21世紀のアジアと環境 - 40億人の生命を支える豊饒の大地と危うさ -」をテーマに『国際シンポジウム』を開催いたしました。中国、タイの研究者をはじめとする6名の講演者より地球を支えるアジアの環境について、生態学、自然環境学、地球環境論など、それぞれの専門的な立場から現地調査と各種データを踏まえた興味深い発題をしていただきました。400名を越す参加者を迎えることができ、熱気につつまれたシンポジウムとなりました。

## 地域連携シンポジウム

11月18日に開催した『地域連携シンポジウム』は、「産・官・学の連携と地域との共生をめざして - 学都仙台そして東北学院大学の現在・過去・未来 -」のテーマで開かれ、市民の方々をはじめ約350名に聴講していただくことができました。シンポジウムでは、時代の変化に対応できる学生を育てるために、これからの大学がどうあるべきかを考えながら、さらに、学都仙台の中において、地域に役立つため大学は何を果たすべきか、示唆に富んだ提言を述べていただきました。

## 大学設置50周年記念事業を終えて

二年間にわたって実施してまいりました大学設置50周年記念事業の実施を通して、昭和24年に新制大学として昇格して以来、今日までの東北学院大学の50年の歩みを検証する機会となりました。

また、シンポジウムやUI活動によって本学が担う社会的使命を明確にすることができました。21世紀に向かってさらなる発展を目指していくための課題解決は、これからのテーマとなりますが、この50周年事業を一過性の記念事業とせず、学内の啓発に努め、教職員一人ひとりがそれぞれの立場を理解し、役割を果たし、幅広く深い教養に裏付けられた人間形成を目指す大学にしていきたいと思っております。

## COLUMN WELL

### 中鉢憲賢工学部長が 『Third Millennium Medal』を受賞

本学工学部長の中鉢憲賢教授が、去る10月22日よりブルト・リコのサンファン市で開催された国際超音波シンポジウムで、IEEE(米国電気電子学会)本部より『Third Millennium Medal』を受賞しました。超音波工学部門においては日本人でただひとり選ばれました。また、10月2日に、日本の電気情報通信学会より「超音波計測に関する研究・教育への貢献」でフェローの称号を贈られました。この称号は、同学会が西暦2000年を記念して新たに設けた会員区分で、第1回目の受賞者となりました。

### 日本政治の現在を観る

#### 法学政治学研究所

研究所の主要行事に、「市民生活と法」を統一テーマとした公開講座と学術講演会の開催があります。学術講演会でこれまで取り扱われたテーマは、『自己責任』の社会と行政法、『インサイダー取引はなぜ悪いか』、『共犯論の課題と展望』などで、本年度は桜美林大学教授(元朝日新聞編集委員)石川真澄氏を招き『日本政治の現在を観る』と題するご講演をいただきました。来年度の学術講演会は、京都大学教授田中成明氏を講師に5月末に予定されています。



## 人との関わりを学びました

高橋 弘嗣さん

経済学部経済学科 3年  
宮城県東北学院榴ヶ岡高等学校卒業



なぜスポーツ新聞部に入ろうと思ったのですか。

大学の4年間は、自由に過ごせる貴重な時期なので無駄に過ごしたくないと思い、自分の行ってきたことが形に残るスポーツ新聞部を選びました。

主にどのような活動をしているのですか。

体育会の活動取材し、年4回「学院スポーツ」を発行するのが主な活動です。

3年間の活動の中で一番心に残っていることは何ですか。

私は今バスケットボール部の活動を追いかけているのですが、昨年の宮城県の大会で本学のチームが初優勝を遂げた瞬間が忘れられません。つらく苦しんだ時期を知っていますから…。私自身も高校時代にバスケットボールをやっていましたので、取材中もついつい感情移入してしまいます。

仙台市で発行している「仙台国体だより」の編集に協力されているそうですが…。

取材相手から思うように話を引き出せず、とても悪戦苦闘しました。また、学院スポーツと違い、たくさんの人の目に触れると思うと、言葉の使い方や

文章の流れが間違っていないかなどと気になることが多く、何度も書き直したり…と無我夢中でした。

今までのクラブ活動で得たことはどんなことですか。

取材のノウハウを学べたことはもちろんですが、一番大きいのは人との関わりの大切さを知ったことです。とにかくいろいろな人と出会いますから。それから、私たちの部では大学からの援助を受けず、自分たちの力で広告を取り、その収入で新聞発行をしていますので、企業の方々との営業的な接し方も学ぶことができました。

卒業後はどのような道に進みたいと考えていますか。

この経験をいかして自分で書いて人に何かを伝える記者や、それに関わる営業など、マスコミ関係の仕事に就きたいと考えています。

Interview

# 学生たちは今

Interview

## 環境のこと未来のこと…

坂本 優子さん

大学院工学研究科応用物理学専攻博士課程前期課程 2年  
宮城県石巻女子高等学校卒業  
東北学院大学工学部応用物理学専攻卒業



大学院進学を意識するようになったのはいつ頃ですか。

高校時代から理系の教師になりたいという希望があり、学部では理科と数学の教員免許が取得できる応用物理学科を選択したのですが、3年の冬に化学の勉強もしたいと思うようになり、4年で物理化学研究をし、大学院の試験を受けることを決めました。

応用物理学専攻では何を専門に研究していますか。

新妻卓逸教授の化学実験室で「UV(紫外線)-H<sub>2</sub>O<sub>2</sub>(過酸化水素水)処理による

非イオン系界面活性剤の分解」という研究をしています。農業や洗剤、工場排水などを紫外線と過酸化水素水を使って水中で分解し、その過程で発生する環境ホルモンなどの有害物質や無害物質を特定しながら分解経路を出し、最終的には無害な水と二酸化炭素になるという研究です。

民間企業との共同研究で学んだことはどんなことですか。

私たちの界面活性剤の分解経路の研究結果をもとに、民間の環境衛生研究

所がさらに研究を重ね、下水道学会でその成果を発表しています。私も共同実験者ということで名を連ねていますが、企業との共同研究ではより深い研究内容が求められるので厳しさを感じる反面、勉強になることも多いです。

昼夜開講制により、大学院では社会人学生の勉学が可能となり、実際にそこで研究などをする学生がいますが、同じ環境で学ぶ者としてどのように感じますか。

年齢の違いというものもあるかもしれませんが、やはり一度社会に出てから再び学ぶという方々はとても意欲的です。彼らの積極性に触発されます。

大学院在籍中に経験したことをこれからの人生にどういかしていきたいと思いますか。

大学生活6年間で、学問だけでなく人とのかかわりの大切さを学びました。卒業後は生徒と何でも言い合える環境をつくれる教師になりたいです。

## COLUMN WELL

### 秋季公開講演会の開催

#### カウンセリング・センター

カウンセリング・センターでは、11月17日に恒例の秋季公開講演会を開催しました。今年度は、「マインド・コントロールに脅かされる現代社会」と題して、静岡県立大学の西田公昭先生にご講演をいただきました。私たちの周りには、表面的にはさまざまな顔をしながら、倫理や道徳を無視した隷属的な支配や商売を目的とする団体があります。それらの被害を避けるためにも、マインド・コントロールに関して無知でいてはいけなく、西田先生は豊富な実例をもとに警鐘を鳴らされました。

# 東北学院大学におけるITの応用



大学は、教育研究の場として高度な情報を提供するのみならず、最先端の情報伝達システムの環境を整えることによって、一般社会および学生に対するサービスの充実をはかる必要があります。また、これは同時に学生を社会に送り出すにあたっての情報技術のトレーニングとスキルアップをはかることにもなっています。そのために、工学部では、既に公開している工学部ホームページによって、様々な情報の配信を

順次予定しています。配信される情報は、休講案内、定期試験情報、時間割、シラバス、各種規定、学生呼び出し、落とし物情報、奨学金、カウンセリング、就職情報、各種行事予定など多岐にわたっています。情報伝達メディアとしては、インターネット固定通信網の他に、移動通信網として急速にユーザー数を増加させているi-modeに対応させています。すなわち、自宅で、あるいは通学途中で休講案内やお知らせをチェックす

ることができるようになるわけです。

こうしたサービスの根幹をなす技術には、Webアプリケーションを用いています。現在のところは比較的簡易なアプリケーションを用いていますが、大学全体で用いることのできる本格的なデータベース連動型情報配信システムの導入も視野に入れていきます。このように、東北学院大学は、ITを生かした即時性や双方向性などの特徴を有する先進的なサービスを指向しています。

## 入学試験の実施状況

—今年度の傾向—

平成13年度入学者選抜のための推薦入試、社会人特別入試(A日程)AO入試(第1期・第2期)が、昨年12月までに終わりました。その結果は以下のとおりです。

### 学業成績推薦

学業成績推薦はいわゆる「指定校制」で、本学が指定校とした高校から、指定された学科・専攻に、指定された人数で推薦された方だけが受験できます。受験した方は、特別の事情がないかぎり合格となります。

定員408名に対し、出願者は413名で、受験者は全員が合格しました。

### 資格取得推薦(経営学科)

本学が指定した商業高校から推薦された、簿記の一定の資格を持った方

だけが受験できます。今年は昼間主、夜間主あわせて26名の出願があり、全員が合格しました。

### キリスト者推薦

2年前からプロテスタントだけでなく、カトリックでも出願できるようになっています。

今年は志願者が4名でしたが、4名とも合格しました。

### スポーツ推薦

今年は、出願予定者のうち希望者を対象に予備審査を実施しました。スポーツ実績からは合格の可能性の小さい方が出願して、不合格になるというケースを減らすことに努めました。

その結果、出願者は昨年より19名少ない132名となりましたが、入学後に活躍を期待される優秀な選手がほとんどを占め、113名が合格しました。

### 社会人特別入試

英文、経済、経営の3学科の夜間主コースで学ぶ社会人のための特別入試です。今年の出願者は3学科あわせて

30名でした。そのうち21名が合格しました。

この試験を優秀な成績で合格した方には、給付奨学金が支給されます(ただし事前の申込みが必要です)。

この社会人特別入試は、3月8日にB日程としてもう一度行われます。

### AO入試

昨年から実施している新しいスタイルの入試です。今年は、第1期では931名(昨年882名)第2期では114名(昨年86名)と、昨年をさらに上回る出願がありました。

第一次選抜(書類審査と面接)と第二次選抜(小論文・小テストと面接)によって、351名(第1期308名、第2期43名)が合格となりました。

### TG推薦

東北学院高校と東北学院榴ヶ岡高校からの推薦入試です。東北学院高校からは103名、東北学院榴ヶ岡高校からは92名の出願があり、全員が合格しました。

## COLUMN WELL

### TGウェルカムレクチャーズが行われる

東北学院高校と東北学院榴ヶ岡高校からの推薦入試(TG推薦)による合格者を対象に、大学の教員が連続講義を行い、大学での勉学への心がまえや、基礎力を付けてもらおうという試みが、今年から始められました。

「TGウェルカムレクチャーズ」と名づけられたこの連続講義は、12月1日に開

講しました。開講式では倉松功学長のあいさつと、佐々木哲夫宗教部長が「東北学院大学で学ぶ意味とTG推薦入学者に期待されるもの」と題する講義を行いました。

その後、講義は毎週1回のペースで6回行われました。文・経済・法・教養の4学部では、法学部の斎藤誠教授による「文章

の読み方・書き方」が、工学部では、岩本正敏教授による「インターネット入門・メカトロニクス入門」が講義されました。

今回の試みは、一貫教育のメリットを生かし、高校と大学の教育的連携をはかる試みとして注目されています。



# 特色ある研究

## 研究紹介

### イギリス文化の源流 - 中世修道院

文学部教授 志子田光雄

約千年にわたり、ケルト、アングロ・サクソン、ノルマン人により維持された中世イギリス修道院は、神学はもとより、イギリス文学史の劈頭を飾る古英語の詩『ベオウルフ』を含む異教物と呼ばれる口承文学を文字にして伝えるなど、文学の面でもイギリス文化の形成に大きく貢献してきました。1534年の宗教改革後徹底的に解体され、イギリス・プロテスタント社会においてあまり顧みられなかった修道院は、20世紀後半における遺跡の積極的保存活動に伴って再び注目を集めてきており、イギリス文化の源流を探る私の興味深い研究対象となっています。

### 地域経済問題に内在する因果関係の検討



経済学部教授 仁昌寺正一

私は「白河以北一山百文」といわれた頃からの東北地方の開発と経済の歩みに関心を持っていますが、研究面ではこの間発生したいくつかの地域経済問題を取り上げ、それがなぜ発生し、どのような開発対応があり、その結果どのような経済システムが形成されたのかという因果関係を明確にすることに主眼を置いています。これまで取り上げてきた問題は、かなり古い時期のものから今日のものまでさまざまですが、今日の問題を取り上げる時は、現場にでかけて住民の生の声を聞いたりもします。

### ラートブルッフ『犯罪の歴史』の研究

法学部教授 武田 紀夫

犯罪は、「社会病理現象」であり、「社会的・政治的・文化的生活に対応した危機現象」です。そのように、ドイツ法学の巨匠グスタフ・ラートブルッフは、犯罪を「マイナスの文化」ととらえ、多彩な資料を駆使して、構想雄大な「犯罪の骨相学」を構築しようと試みました。『犯罪の歴史 - 歴史的犯罪学の試み』1951年を刑法学者エーベルハルト・シュミットは「これまで書かれたドイツ法制史の文献の中で右に出るものがない」と評します。私は日夜この名著の研究に取り組んでいます。

### EMCの研究

工学部教授 越後 宏

EMCは、Electromagnetic compatibility の略で直訳は電磁気的両立性ですが、その主旨から「環境電磁工学」と名付けられました。両立とは、電子機器の放射雑音の低減と、微弱な電波信号の利用機器の強化により、互いの悪影響をなくし、両者を生かそうとするものです。EMCはそのための技術で、電気エネルギーを利用するもの全てに調和の取れた姿を求め、安全で住み良い社会を築こうとする未来型の学問分野です。

### 衛星画像データを中核とした 自然の総合解析システムに関する研究

教養学部教授 松澤 茂

この研究では、東北大学で1987年から直接受信している米国気象衛星ノアのデータから日本全土を含む画像データを作成しています。ノアは太陽同期型の極軌道衛星で、高度800km、周期102分、分解能1.1km、解像度1024階調の気象衛星です。この画像データから東北地方を中心に、植物の活動、地上気温、沿岸域の海水温、沿岸域の環境汚染などの現象を解析しています。地上気温の解析では県庁所在地を中心に都市の温暖化が起きているかを解析しています。さらに、積雪域を検出するためのアルゴリズムを開発し、積雪域の検出を行っています。その結果、約90%の確率で積雪域を検出できるようになり、様々な研究分野で利用されています。なお、研究室では、衛星データをデータベースシステムに登録し、研究者にインターネットで公開しています。今後は、インターネットの機能を最大限に活用した衛星画像データの応用と教育の現場での環境教育を支援するためのシステムに関する研究も進めたいと考えています。



積雪域の検出(1991年3月~4月)

## COLUMN WELL

### 在外研究だよりーイギリス・ロンドン大学ー

経済学部助教授 千葉 昭彦

現在、ロンドン大学アジア・アフリカ研究 所 Department of Geography に在籍 しました。理由は、財政的及び学術的に不健全な状態が続き、前者は教育効果、後者は4年に一度の業績審査の結果によるものと決まりました。合併後の身分は、先方のス

タッフの専門分野と各々の研究業績とで決まるということで、必ずしも保障の限りではないそうです。国外でもこれまでの教育・研究の成果が問われることとなります。

## 『東北学院資料館(仮称)の新設など』

学長 倉松 功

大学設置50周年記念主要事業の一つである8号館(教育・管理棟)が、昨年の9月に完成し、教学関係の事務の6課・事務室がすでに学生サービス業務を行っています。また、諸設備の整った最上階の押川記念ホールや中教室などは、新年度からのさらなる有効利用が期待されます。8号館に移転した教務課、国際交流センター事務室などの空き室の利用について、所定の委員会での検討が終わりました。個々の空き室の利用についてはいずれまとまった報告がなされますが、東北学院全体によって使用されているラーハウザー記念礼拝堂の地下の利用について、報告します。

土樋キャンパスにあるこの礼拝堂



ラーハウザー記念礼拝堂

は、法人全体にとって重要なものであることはもちろん、とりわけ土樋キャンパスで学んだ方々にとって

は思い出の一つの中心として特別な意味を持っています。そのような考えを背景として、礼拝堂地下室の利用を決定しました。

第一は、東北学院資料館(仮称)として、東北学院関係の資料を常時展示します。本年5月15日は東北学院創立115周年という一つの記念すべき時に、そのオープン・セレモニーができればと思っています。昨年が続いて行われる大学のホームカミングデー〔同窓祭〕に来学される方々はもとより日々の来訪者にとっても見学の場所となるでしょう。

次に、礼拝堂地下の利用として、キャンパスミニストリーの実践やキリスト教関係書籍の展示の場とすることは、礼拝堂の目的に則したものと見えるでしょう。本学の寄附行為第三条、学則第一条にうたう建学の精神・キリスト教といっても、その内容は多様です。宗教改革に基づくプロテスタント(新教)といってもなお漠然としています。礼拝、キリスト教学以外に、さらにキリスト教に触れ、学びたいという方々に何か役立つ書

物の展示なども考えられます。

第三は、礼拝堂が法人全体の運営に関わっていることから、同様に法人全体に及ぶ部局ということで、広報室も一部を使用することになりました。8号館(教育・管理棟)への移転によって空き室となったのは礼拝堂地下室に限りません。それらの空き室の利用の詳細は、既述のように後日なされますが、重要なことは、土樋キャンパスの整備は、それによって終わらないということです。大学院ゼミナール、大学院生自習室、各研究所の総合棟など検討しなければなりません。仙台市の中心に近い土樋の持つ意味は、東北地方、宮城県における仙台市の役割の重要度の増加に比して大きくなります。そのように21世紀における本学の地域における文化地理的意味を考え、さらに、多賀城キャンパスの整備といった要件も視野に入れて今後の大学のキャンパスの改善を考えなければならないでしょう。

### COLUMN WELL

## 環太平洋産業連関分析学会第11回(2000年度)大会開催

環太平洋産業連関分析学会(PAPAIOS)第11回(2000年度)大会が、昨年11月3日、4日の両日、18名の外国籍を含む155名の参加のもと、本学土樋キャンパスにおいて開催されました。本学会が東北地方で開催されるのは初めてです。また、地方で

開催されたのは過去に神戸市があるだけです。本学会を東北地方で開催するにいたった経緯は、バブル経済崩壊により大きく冷え込んだ東北経済に対し、政府は積極的な財政・金融政策をとりました。その影響が東北にどのようになされたのかを分析するとともに、1日

でも早く回復に向かうよう、経済の波及効果や連関効果の分析を行うことで回復への途を明らかにするためです。そのため、今大会では特別セッション:東北経済を設けました。その他、I-O分析、国際経済、環境問題、情報、技術について熱心に議論が交わされました。



### 文学研究科

#### 海外調査だよりー南ベトナムの漁村

英語英文学専攻・ヨーロッパ文化史専攻・アジア文化史専攻、当然のことながらどの専攻にも、海外での研究や調査に従事する教員・院生が数多くいます。ここに紹介するアジア文化史専攻博士後期課程の院生、文化人類学専攻の加藤緑さんもその一人です。加藤さんが現場調査しているのは、南ベトナムホーチミン市近くの漁村ホアヒエップ村で、おもに主婦の日常生活を調査しており、その結果をもとに、ベトナム戦争前後で家族生活がどのように変化したが、その変化の意味を文化人類学の視点から考察するのが目的であるとのこと。今ではホアヒエップの人たちともすっかり親しくなった加藤さん、次の調査出発まで、準備に余念のない毎日です。



ホアヒエップの子供たち（加藤緑さん撮影）

### 法学研究科

#### 法科大学院問題合同委員会が活動を強化へ

2000年11月20日、司法制度改革審議会は中間報告を発表しました。そこでは、「21世紀の司法を担う質・量ともに豊かな法曹を養成し、司法の人的基盤を確立するため、法科大学院 仮称 を中核とし法学教育・司法試験・司法修習を有機的に連携させた『プロセス』としての法曹養成制度を新たに整備すべきである」としています。本学法学部と本研究科はこの動向にこれまでの歩みと自らの特色を踏まえて適切に対処すべく検討を進めています。審議会の最終報告が出される来年度には、この活動をさらに強化します。学内はもとより、特に東北地方の法曹界をはじめ、経済界、地方公共団体などや法学関係者、一般市民のご助言、ご協力を心よりお願い申し上げます。

### 工学研究科

#### グローバル化時代に期待される博士たち

グローバル化の時代、国際社会で活躍する科学技術者にとって博士号は必要不可欠な資格となっています。昨年秋の大学院10月入学生として、ミャンマーのチダ・リンさんが土木工学専攻博士(後期)課程に在籍しています。チダさんは現在、水資源や環境に係わる研究に励んでいますが、将来、環境工学の専門家として、アジアから世界へと活躍の場を広げてほしいものです。

去る11月には2名の論文博士(工学)が誕生しました。アンリツ電気・研究所の内野政治氏と本学工学部の遠藤春男助教授です。内野さんは本研究科の環境電磁工学分野の研究グループとも共同研究を続けていますが、博士論文の主要な内容は内野さんが開発した新しい環境電磁界計測システムです。この計測システムは国際標準規格として認定され、世界的な普及が図られています。また、遠藤助教授は新しい光音響顕微鏡を応用して構造材料や機械部品の非破壊評価を行う研究を続けていましたが、その成果が博士論文の主要な内容になっています。

### 経済学研究科

#### 大学院生と研究者・実務家との交流

本学の経済学部には、昭和52年に発足した経済学科のTG経済学研究会、平成6年に発足した商学科(4月より経営学科)の職業会計人TG会があり、研究報告者として、国内外の著名な研究者・実務家を招聘しています。これらには、学部の教員ばかりではなく、大学院生にも研究報告の機会が与えられています。それぞれの専門学会での報告のための準備を整える機会として重要な意味を持っており、多くの大学院生がいずれの研究会にも積極的に参加して、研究者や実務家との交流を深め、自らの研究に役立てています。

### 人間情報学研究科

#### 日々新たなる研究科を目指して

人間情報学研究科が発足して8年目が終わろうとしています。その間、博士学位取得者4名、修士学位取得者34名を数えるようになりました。この研究科の特徴的なことは、修士・博士のどちらの課程にも社会人が在学して自分の職務と研究の両立に努めていることです。しかも仙台市内やその近郊だけではなく、東京をはじめ関東方面からの通学者が見られることです。その利便性を配慮して、講義・ゼミは土曜日に多く集中しますので、土曜日は院生にとって最も充実した日になります。一方、大学側も研究領域の再編やシラバスの改訂等に取り組みながら、日々新たなる研究科、真に社会に開かれた大学院を目指して努力しています。関心のある方は学内外を問わず、土曜日のゼミの参観を是非どうぞ。



## 史学科の国際交流—考古学の場合—

中国の南開大学と韓国の平澤大学校が1998年から本学の国際交流協定校となり、アジアの大学との教育・学術交流が本格的に始まりました。1999年には南開大学の南炳文教授が本学文学研究科の客員教授として来学されたことは、記憶に新しいことです。

さて、史学科考古学では1999年から中国と二つのテーマで国際交流を行っています。一つは旧石器考古学の分野で、北京原人の研究で世界的に知られる中国科学院古脊椎動物与古人類研究所と行っています。2000年には3～4万年前山西省峙峪遺跡の石器調査を行い、河北省にある100万年前の東谷坨遺跡と140万年前の仙台遺跡の発掘調査に参加しました(写真)。二つ目は新石器考古学の分野で、山内丸山遺跡を有する青森県や東奥日報社が中国社会科学院考古研究所と1999年以来行っている共同研究に参加しています。内モンゴルにある8000年前の遺跡群の踏査のほかに、出土石器の用途の研究を本学で行



仙台遺跡



い、中国北方の農耕化の過程の解明や日本の縄文文化との交流の検証を目指しています。

2001年には考古学に造詣の深い中国黒竜省ハルビン市社会科学院東北アジア研究所所長の王禹浪先生が、客員教授として来学する予定ですので、講義や講演を通して東北アジア史についてご紹介いただけることでしょうか。皆さんもこのような国際交流の機会を積極的に活用し、アジアという視点で日本の歴史、現状、そして未来を一緒に考えてみませんか。

## 経済学部からの情報発信

秋は毎年、講演会、学会などが多く開催される季節ですが、今年は特に経済学部に関わる行事が集中しました。9月後半からの社会福祉研究所主催のオープン・カレッジ「福祉社会論 福祉社会の現在を解く」(10回講義)の始まり、10月には経済学科の公開講義「経営管理思想の展開 現代企業へのメッセージ」(6回講義)、東北産業経済研究所のシンポジウム「ベンチャー・ビジネス経営の新局面 銭東北のベンチャー・ビジネスの可能性」、さらにそれらに続いて11月には2つの学会「環太平洋産業関連分析学会第11回大会および日本地域学会第37回大会」が開催されました。これらはいずれも学内

外の多くの方々のご協力によって実現されたものですが、それらを通して東北学院大学の知的・物的資源を開放し、多くの方々と交流の機会をもつことができたと同時に、経済学部としてもいろいろな形で情報発信ができたと思います。

高度情報社会といわれる中で、仙台は情報発信の場としてなお低位にとどまっているように思われます。人的資源が集中し、豊かな知的環境をもつ大学こそが、情報発信の場としてもっとも相応しい条件を備えています。経済学部はそうした役割を今後一層積極的に果たしていきたいと考えます。

## COLUMN WELL

### 情報教育を担うチャンス

平成13年度入学生から、高等学校の『情報』の教員資格(高等学校教諭一種免許状)が取得できるようになりました。取得できるのは、教養学部の情報科学専攻、工学部の電気工学科と応用物理科の学生です。

これからの学校教育で情報教育の必要性がますます高くなっていくこと、しかし、それを担える教員がまだまだ少ないことを考えると、教職をめざす方に取っては、チャンスの大きい科目といえます。

## 悩む法学部—学生の「基礎能力」を育てる方法とは？

本学に限らず多くの大学で、理論的な文章や話を「読み」「聴き」「話し」「書く」ことや、「自分で調べる」といった、大学での勉強のしかたについての基礎的な訓練を必ずしも十分に受けてきていない新入生が多いようです。そこで、他大学の法学部と同じように、当学部では1年生対象の「導入科目」3科目や、1・2年生向けの「基礎演習」を開講しています。

しかし、問題は「実際に効果があるのか」ということでしょう。特に1・2年生の「基礎演習」では、担当教員の専門分野にかかわらずあとでどの分野の演習に参加しても役に立つような基礎演習にしよう、と考えてスタートしたのですが、そのような勉強で困った

ことがなく、ほとんど考えてこなかった日本の大学教師の例に漏れず、法学部の教員たちは、「法学部のどの分野でも役に立つ基礎能力とは何だろう」「どうやって教えたらよいか」「どのレベルまで教えるべきなのか」というところで悩むことになりました。

しかもなお困ったことに、他の学問分野や他の国の法学部でうまくいっている方法が、日本の、しかも本学の法学部でもうまくいくという保証はないので、本学の法学部にあった基礎能力養成方法は、自分たちで考えなければなりません。法学部では、今年度から「基礎演習」の内容・運営方法についての研究会を開き、考察と実践を重ねてゆくつもりです。

## 人材育成に係わる二つの取り組み

21世紀のIT社会を担う人材育成のため、小学校から情報教育が始まります。電気工学科と応用物理学科ではカリキュラムの改正を行い、文部科学省から情報教育の教員資格認定校として認可されました。早ければ今の3年生の中から卒業と同時に情報の先生として中学校や高等学校で教鞭をとる人が現れるかもしれません。

工業技術分野の人材育成に関して、地域連携への新しい取り組みが開始されています。厚生労働省が管轄して

いる雇用・能力開発機構宮城センターと昨年の夏頃より協議し、東北職業能力開発大学校と多賀城市にある宮城職業能力開発促進センター（ポリテクセンター）との連携協力のもとに、具体的な人材の教育訓練プログラムを準備することになりました。地元就職したい学生や新しい技術を身につけたいと考えている卒業生には、このプログラムに参加していただきたいと思います。

## 教養学部ホームページの設置 <http://www.izcc.tohoku-gakuin.ac.jp/>

教養学部のホームページを解説しました。最初の画面は、Thomas youngによる光の三原色の混色実験をモチーフにしました。赤・緑・青の円形が現れ、それらが中央に向かって移動しながら重なりあうと、次に一色ずつ交代で陰影がつけられ、立体的にみえます。赤・緑・青の各色はそれぞれ、人間科学・言語科学（4月より言語文化）・情報科学の各専攻を表現しています。それぞれの色の部分をクリックすると対応する専攻のページに、また、三原色が混じりあった中央の白い部分をクリックすると教養学部のページに行けます。この三原色は小さなアイコンにされて他のページにも登場し、同じように機能します。

ページの設計にあたっては、高校生に見てもらうことを第一に考えました。大学の教員や研究室での生活に関する情報にすぎたどり着けるように、教養学部と各専攻のページには所属教員を表現するアイコンを並べました。教員の研究テーマやニックネーム等にちなんだものです。それをクリックすると直接、その教員のページに飛ぶことができます。学部のページでは、ページを開く毎に違うアイコンの組み合わせが出てきます。まだまだ未完成ですが、これらのページを訪れた高校生が、面白いアイコンを見つけてクリックしたら、学問の面白さの一端を垣間見ることができる、そんなページを目指してコツコツと更新していきます。

## COLUMN WELL

### ホームカミングデー[同窓祭]を開催

昨年10月14日に、本学の同窓生を大学に招待し、同窓生相互の親睦や同窓生と現役学生との交流、また同窓生と大学の絆を深めていただくために、第1回ホームカミングデー[同窓祭]を開催しました。当日は、約350名の同窓生の参加があり、パイプオルガンコンサートや公開授業、また同日開催の大学祭などを通して、懐かしい当時の学生時代を振り返っていただくことができました。

### 平成12年度90周年記念館講演会の開催

平成12年度の講演会は、セクシャル・ハラスメント対策委員会との共催で、10月26日に土樋キャンパス8号館会議室で、仙台弁護士会所属の佐藤由紀子弁護士を講師にお迎えし、「セクシャル・ハラスメントのない大学をつくるために」という演題で行われました。

## ダラム大学(イギリス)との交流

ダラム大学は、1832年に創立されたイングランド北部にある総合大学で、学生数は約1万人です。本学とは、昨年4月に協定を締結、早速その秋から1年間の交換留学が実現し、現在それぞれの大学で学生が在籍し勉学に励んでいます。

## ダラム大学 Kenneth Calman(ケネス・カーマン) 学長からのメッセージ

It is my great pleasure to offer congratulations from the University of Durham to Tohoku Gakuin University on the occasion of its 50th anniversary. We are delighted to count Tohoku Gakuin among our partner universities in Japan and although our relationship is recent, it already becoming apparent that there are many similarities between our two institutions.

One striking similarity is in our geography. Durham is located about three hours north of London, similar to Sendai's position in relation to Tokyo. Sendai is the economic centre of northern Japan and the North-East region of England is also an important economic area for the UK, with Newcastle as the main city and Durham, university town, located 15 miles to the south. Newcastle, which grew from the ship-building and coal mining industries in the 18th and 19th centuries, Durham, with its UNESCO World Heritage site of the Cathedral and Castle has strong links to earlier historical periods, stretching back to the foundation of the Cathedral in the 11th century.

Like Tohoku Gakuin University, the University of Durham has strong connections with the Church. The Bishop of Durham donated his official residence, Durham Castle to become the first of the constituent colleges of the University of Durham in 1832. This marked the formation of the first university in England since Oxford and Cambridge several centuries previously. Our close links with the Church continue to the present and two of our Colleges offer training for Anglican and Catholic priests.

All the main subject areas offered at Tohoku Gakuin are also taught and researched at Durham. We are particularly excited about our new £12 million Institute for Particle Physics Phenomenology which will be completed in 2001. Durham already has the largest particle physics research group in the UK, but with new buildings and more research staff, we will be the base for the UK's international collaboration in this area. We also have world class research in other areas of Physics and Engineering and would welcome suggestions for collaboration from our Japanese colleagues.

In recent times, this region of England has seen inward investment from Japan, so Japanese culture is well known and respected. The University first offered Japanese language teaching in 1981 and now has a separate Department of East Asian Studies. We have had many visitors from Japan; the Crown Prince visited Durham Cathedral in 1989 and the Japanese Ambassador planted a cherry tree (of which there are many in Durham, much to the surprise of Japanese visitors).

the University's Botanic Garden in 1998. We were also delighted to welcome your President, Professor Kuramatsu in August 2000. We hope this will be the first of many visits from our colleagues at Tohoku Gakuin.

I know that as the relationship between Durham and Tohoku Gakuin flourishes, we will find even more connections. I hope that in future years we will be able to use these similarities as a foundation for building on our partnership and consequently promote understanding and friendship between not only our students but also the Sendai region and the North-East of England. We offer our sincere wishes that Tohoku Gakuin will continue to prosper and flourish in 21st century.

東北学院大学創立50周年を記念し、心からお祝いを申し上げます。貴学とダラム大学との間に交流協定が結ばれ、真に喜ばしい限りです。両大学には既に共通点がたくさんあります。

まず地理的な共通点ですが、ダラムはロンドンの北3時間ほどの所に位置し、仙台と東京との位置関係に似ています。仙台は北日本の経済の中心地で、イングランド北東地域も英国の重要な経済圏になっています。工業都市ニューキャスルの南方15マイルに位置するダラムは大学町で、Cathedral Castleをはじめ歴史の色濃い所です。

教会との間に密接な関係があり、それが今日まで続いていることも両大学に共通しています。イングランド地方で三番目に古く設立された本学を構成するコレジの最初のも(1832)は、ダラム主教が寄付したDurham Castleと呼ばれる公館です。現在本学には英国一の神学部と司祭を養成するコレジが二つあります。さらに教育・研究分野について言えば、貴学にあるものの大部分が本学にもあります。特に本学では、2001年に1200万ポンドをかけて新しい現象論的素粒子物理学研究所が完成する事になっており、当地において英国の国際共同研究の根拠地になることとなります。物理学の他の領域や工学においても世界的水準の研究を行っています。

近年、イングランドの当地域に対して日本からの投資が活発に行われ、日本文化はよく知られ、尊敬されています。本学は1981年に日本語クラスを開設し、現在では独立した東アジア研究科となっています。日本からの訪問者も多く、本年8月には貴学の倉松学長をお迎えいたしました。

ダラム大学と東北学院大学との間の協定関係の進展にともない、さらに共通点が増えることと思います。今後これらの共通点を基盤にして、両大学の提携関係が一層強固なものとなり、学生間にもとより仙台地域とイングランド北東地域の間でも理解と友情が深まることを願っています。東北学院大学が21世紀にますます繁栄されることを祈念いたします。

コレジ:総合大学を形成する一つの単位

### 国際交流協定校

- Ursinus College アーサイナス大学(アメリカ)
- Franklin and Marshall College フランクリン・アンド・マーシャル大学(アメリカ)
- Fachhochschule Wiesbaden ヴィースバーデン大学(ドイツ)
- Pyeongtaek University 平澤大学(韓国)
- Nankai University 南開大学(中国)
- University of Durham ダラム大学(イギリス)
- University of Ulster アルスター大学(イギリス)

問い合わせ先 国際交流センター事務局  
TEL 022-264-6425/6404  
E-mail: "IC0@tssc.tohoku-gakuin.ac.jp"



## 語学学習を応援します

### オーディオ・ヴィジュアルセンター

オーディオ・ヴィジュアルセンターは、視聴覚機器およびコンピュータを利用して言語の教育と研究を行うための機関です。1955年に前身の「オーディオ・センター」が設置され、1980年に現在の体制が整えられました。泉キャンパスにL教室とCAI教室の計11教室が備えられてからは、英語のみならず中国語、ドイツ語、フランス語および日本語の教育実践、また総合的な視聴覚教育研究ができるようになりました。長い歴史を持つこのセンターには、先に挙げた言語を中心に、語学学習のための充実した教材が備えられています。本学の学生は、センター内の自習室でこれらを利用することができます。また、年に2回「英会話集中訓練コース」を開催しています。ネイティブ・スピーカーの丁寧な指導のもと、英語によるコミュニケーション能力の向上を図るプログラムです。「学術講演会」は年に1回開催しており、一般の方も参加できます。



問い合わせ先  
泉キャンパス  
オーディオ・ヴィジュアルセンター  
TEL. 022-375-1182

## 時代の先端を行く

### 情報処理センター

情報処理センターは、学生への情報処理教育や教員の研究支援を目的として1981年に発足しました。現在では、教育・研究支援のコンピュータールーム運営のほか、コンピューターネットワークの管理部としての業務も行っていきます。

樋・泉・多賀城の3キャンパスに設置されている情報処理センターは、それぞれ学部・学科の特色にあった運営を行っています。各キャンパスとも、パソコンやワークステーションなどを授業や個人で利用できます。また、3キャンパス間と学外を結ぶ専用回線により、インターネットのアプリケーション(メール、ホームページ検索など)が自由に使用できるほか、サークルやゼミ単位でのホームページ作成・公開も行うことができます。

問い合わせ先  
土樋キャンパス情報処理センター  
TEL. 022-264-6502

## 『セント・オルバンズ年代記』

### (St. Albans Chronicle) 初版本



『年代記』(chronicle)とは、そこに書かれている内容の全部または一部が同時代にあった史実や事績などを記録しているものです。イギリスでは、王権がある程度国民的基盤をもつ

ようになってから作られた『アングロ・サクソン年代記』(Anglo-Saxon Chronicle) 9世紀末～などがよく知られていますが、中世の時代にはキリスト教的な史観で多くの年代記が作られ、史書の代表的な形式になりました。しかも、こうした年代記の作成は当時文字を使えた修道僧らの手に多く委ねられ、修道院(僧院)の聖務日暦と共に周辺の事件や伝聞などが加筆され、時にはその内容が一地域の記録をこえて国全体の公式記録の性格をおびる場合もありました。

本学が所蔵する『年代記』は、ロンドンの北方約20マイルに位置し、イギリス第二の長さの大伽藍で知られるセント・オルバンズ大聖堂で作られた木版刷りの一冊です。『セント・オルバンズ年代記』の作成は、ほぼ13世紀から15世紀頃まで続きますが、これはその規模と情報の信頼度において『フランス大年代記』に匹敵するものである、といわれます。

ところで、本学が所蔵する『セント・オルバンズ年代記』初版本の興味ある特徴の一つは、ジョン王(King John, 1199-1216)に関する数頁の叙述に朱筆で×印が入れられていることです。「欠地王」(John Lackland)の異名で知られ、カンタベリー大司教の人選では実力法皇イノケンティウス 世と争って破門され、内政においてもイギリス封建貴族らの反発をかい、ついに『マグナ・カルタ』(=大憲章)に署名させられたことで有名な人物です。最近の研究ではその名誉もいづらく回復されてはいるものの、ジョン王の評価はおよそ芳しくない。実はそうした悪評の原因は、多くが修道僧らの手による史書のためです。年代記作者であった当時の修道僧たちは、その生計に関し国王や有力者に依存していなかったため、『年代記』の中で統治上の諸問題とともに時の支配者を批判できたのです。その部分が、おそらく後年になって公権により朱筆で削除された可能性があると推測されます。

問い合わせ先 図書館事務室  
TEL. 022-264-6491

## COLUMN WELL



## オーディオ・ヴィジュアルセンター主催 公開学術講演会を開催

オーディオ・ヴィジュアルセンターでは、毎年公開学術講演会を開催しています。平成12年度は、去る10月20日に泉キャンパスで開催しました。講師には、中国の南開大学副教授(歴史学博士)で、現在中央大学に留学中の李小林(リー・シャオリン)氏をお招きし、「中国の大学における外国語教育 - 特に南開大学の日本語教育について - 」と題してお話いただきました。



## 就職部より

Placement Info.



### 本学を取り巻く就職活動環境

学生の就職活動のスタートは年々早まっています。学生アンケートによる調査でも50%以上の学生は早すぎると回答しています。しかし、この傾向は年々あらたまるどころかますます早まってきています。昨年12月、このような状況に日本経営者団体連盟(日経連)は、採用・選考活動するときに守るべきルール(倫理憲章)を発表しました。それは、卒業学年に達していない学生(大学3年生など)に対する早期採用活動の自粛を盛り込んで、企業に遵守を呼びかけたものです。背景には、就職協定の廃止(1997年)以降、採用競争が過熱し、大学3年生を対象に採用活動を行う企業が増え、大学側は逆に、学生が学業・研究に十分専念できなく、正常な学習環境が確保できない状況の改善を強く求めていたことによるものです。本学でも学生の不安を少しでも解消しようと、昨年6月、準備のためのミニガイダンスを開催し、夏期休暇の活用を促し、10月初めより本格的な就職活動支援の行事をはじめています。特に、昨年11月に実施した就職実践模擬試験は各学部とも高い受験率を示しております。また、就職部行事(就職説明会・情報セミナー・就職講演会・先輩体験談・各種研究講座等)への出席状況も高く、早い時期から高いモチベーションをもち、しかも、それをいかなる場面においても表現できるようにしてほしいと願っています。

問い合わせ先 就職課  
TEL.022-264-6481

## 入試センターより

Admissions Info.



### 一般入試 前期日程の志願状況

平成13年度入学者選抜のための一般入試(前期日程)が2月1日から4日まで、仙台、多賀城の本学キャンパスのほか全国7ヶ所(札幌・青森・盛岡・秋田・山形・郡山・東京)の試験場で行われました。

志願者は全学で9,235名(昨年は10,290名)、募集定員に対する倍率は7.7倍となりました。各学部ごとの志願者数と倍率はつぎのとおりです。文学部1,871名(6.7倍)、経済学部3,930名(8.7倍)、法学部1,280名(7.2倍)、教養学部1,131名(11.1倍)、工学部1,023名(5.6倍)。

3月8日には後期日程試験が行われます。

問い合わせ先 入試センター事務局  
TEL.022-264-6455

### 東北学院大学

#### 土樋キャンパス

大学院：文学研究科、経済学研究科、法学研究科  
学 部：文学部・経済学部・法学部(各3・4年)、  
文学部二部、経済学部二部  
〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号  
TEL.022-264-6421 FAX.022-264-3030

#### 多賀城キャンパス

大学院：工学研究科  
学 部：工学部  
〒985-8537 宮城県多賀城市中央一丁目13番1号  
TEL.022-368-1116 FAX.022-368-7070

#### 泉キャンパス

大学院：人間情報学研究科  
学 部：文学部・経済学部・法学部(各1・2年)、  
教養学部  
〒981-3193 仙台市泉区天神沢二丁目1番1号  
TEL.022-375-1121 FAX.022-375-4040

#### 東北学院中学・高等学校

〒980-0811 仙台市青葉区一番町一丁目9番1号  
TEL.022-227-1221(代) FAX.022-227-6302

#### 東北学院榴ヶ岡高等学校

〒981-3105 仙台市泉区天神沢二丁目2番1号  
TEL.022-372-6611(代) FAX.022-375-6966

#### 東北学院幼稚園

〒985-0862 宮城県多賀城市高崎三丁目7番7号  
TEL.022-368-8600(代) FAX.022-309-2655



### —ウーラノス—

東北学院大学 広報誌 Vol.6

東北学院大学設置50周年記念事業  
大学広報誌発行小委員会

委員長	総務担当副学長	関根 正行
副委員長	総務部長	飯土井公洋
編集長	宗教部長	佐々木哲夫
委員	文学部教授	遠藤 健一
	経済学部教授	小笠原 裕
	法学部教授	斎藤 誠
	工学部教授	星宮 務
	教養学部教授	片瀬 一男
	総務部次長	高橋 征士
	総務部調査企画課長	石井 勝雄
	総務部総務課長補佐	桔梗 元子
	総務部調査企画課	伊藤 寿隆
	総務部調査企画課	石上 貫繁

東北学院大学広報誌『OY PANOΣ (ウーラノス)』に関するご意見・ご質問をお寄せください。今後とも皆様のご期待に沿えますよう、編集いたします。なお発行日は、6月・10月・2月となっております。

発行日 平成13(2001)年2月20日  
編 集 東北学院大学  
設置50周年記念事業  
大学広報誌発行小委員会  
発 行 東北学院大学  
設置50周年記念事業  
実施委員会

〒980-8511  
仙台市青葉区土樋一丁目3番1号  
TEL.022-264-6424 FAX.022-264-3030  
<http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/>  
e-mail c.kikaku@staff.tohoku-gakuin.ac.jp

印刷 (株)エイエイピー